

2021年01月06日 2面

文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#)  [印刷](#) 

展望2021 - 道路舗装・2 / 前田道路・今泉保彦社長 / コンセッションなど模索



今泉保彦氏

昨年は社長に就任した年でもあり、社員との対話に多くの時間を割いた。新型コロナウイルスの感染拡大で営業が思うようにいかず、少し受注に影響してしまった。ただ施工で新型コロナによる影響はそれほど出ていない。

今年は官庁工事に注力する。当社は民間7、官庁3と民間工事の割合が多い。来期は各拠点のバランスをみながら官庁工事の比率を引き上げたい。ただ、当社の特徴である民間小口工事を重視する姿勢は変えない。今年は新しい3カ年の中期経営計画がスタートする年でもある。計画は体質改善と生産性改革、新たな収益基盤の確立の三つを柱に据える。新たな収益基盤の確立では、現在の建設と製造というビジネスモデル以外の新規事業として、PPP / PFI やコンセッション（公共施設等運営権）などへの取り組みを模索する。これらの取り組みを進める上では、人事交流などを通じて先行して取り組んでいる前田建設との連携を深めていく。

職人の高齢化が深刻だ。福利厚生の一環として協力会社に宿舍を提供したり、さまざまな講習や研修を開いたりしている。若い人を入れるため待遇面の改善に取り組んでいく。道路建設市場をみると、なかなか道路の新設工事が伸びる状況ではない。アスファルト合材の出荷量も少しずつ落ちている。この状況下でどう出荷量を確保するか、今後の道路建設会社の生き残りの方法を模索していく。

記事ID : 3202101060203

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます